

DENSO CUP SOCCER

第5回大学日韓定期戦

全日本大学選抜

全韓国大学選抜



3月23日 国立競技場
☆全日本大学選抜3-1全韓国大学選抜
 【得点者】()内はアシスト
 1分: [韓] PK
 41分: [日] 渡邊
 54分: [日] 宮崎 (三門)
 85分: [日] 伊賀
 【メンバー】
 GK 東口順昭 [3] (新潟経営大)
 DF 高橋秀人 [2] (東京学芸大)
 染谷悠太 [3] (流通経大)|
 福田俊介 [3] (法大)
 宮崎智彦 [3] (流通経大)
 中山友規 [2] (駒大) ☆
 MF 三門雄大 [3] (流通経大)
 平木良樹 [3] (流通経大)
 →66分 島田祐輝 [3] (駒大) ☆
 伊藤大介 [2] (順大)
 →87分 三平和司 [3] (神奈川大)
 FW 渡邊千真 [3] (早大)
 →66分 池田 圭 [1] (流通経大)
 伊賀貴一 [3] (静岡産大)
 【SUB】
 GK 河田晃兵 [2] (福岡大)
 DF 山口和樹 [3] (福岡大)
 DF 西嶋 聡 [3] (愛知学院大)
 MF 大家 翼 [3] (関西大)

国立に示した駒大イスマ
 春の空気を漂わせる乾燥したコンディションの中、聖地・国立で行われた第5回日韓大学定期戦。
 ホームである全日本は主導権を握りたいところだったが、キックオフ直後から押し込んでくる全韓国にPKを与え、先制されてしまう。その後の全日本はボールポゼッションを高めるも選手同士の動き出しが噛み合わず、単調なパス回しに終始。41分に右サイドの崩しから、ゴール前の混戦へ持ち込み同点に追いつくが、前半のシュート数は4本に終わる。
 後半、長身のDFが並ぶ相手に、全日本は足元で繋ぐ効果的なパスワークで試合の主導権を徐々に手繰り寄せ。前線で一度はボールを奪い取っても後方のMFがサポートし、相手DFラインの裏を狙い続けることで生まれる連動性は駒大とスタイルは違えど

秋田監督が強調する「速さ」を意識したサッカーが垣間見えた。
 体を反転させながら相手FWとボールを注視しつつ、周りの選手も気にしなければならぬ状況に陥った全韓国は次第に最終ラインを下げざるを得なくなる。全日本はこの隙を見逃さず、54分に中央を崩し逆転。85分、CKからのチャンスを生かし3点目を挙げて勝利した。大学サッカーの実力者が集う中、センタIBACKとして先発フル出場した中山は持ち味である1対1の強さで相手FWを封じ込め、「将来が楽しみだね」と秋田監督からの信頼を勝ち取った。「やることは(駒大と)変わらないかったんで」と振り返る島田は66分から出場。前線で相手をかき回し続け決定機に絡む動きも見せた。前途多難なシーズンが予想される前に、普段とは違う環境で2人が感じた刺激は駒大にとってのも刺激になる事を期待したい。(吉岡 克洋)

日韓戦データ

- 第1回 全日本3 - 2全韓国
- 第2回 全日本1 - 2全韓国
- 第3回 全日本4 - 2全韓国
- 第4回 全日本0 - 3全韓国

第5回の今大会は駒大の秋田浩一監督が選抜チームの指揮をとった



左:「ヘディングは負ける気がしなかった!」と中山。選抜での経験は大きな自信になったのではないかと。

右: 途中出場ながら持ち前の運動量を見せ付けた島田。駒大での活躍にも期待が高まる。

(撮影・中野成博)

